

令和6年度大府市交通安全対策会議 議事録

日 時：令和6年5月23日（木）
10時00分～10時55分
場 所：大府市役所 全員協議会室

【 出席者 】

会 長：岡村秀人：大府市長

委 員：長谷川温：国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所名古屋国道維持第三出張所長、山本卓也：愛知県知多建設事務所長、林下京子：愛知県道路コンセッション株式会社、今井聡至：東海警察署交通課長、花井静枝：大府市老人クラブ連合副会長、深谷さと子：大府市身体障がい者福祉協会代表、高倉直子：大府市小中学校PTA連絡協議会代表、安藤梨子：一般市民代表

幹 事：田中雅史：文化スポーツ交流課長、小島紳也：高齢障がい支援課長、山本貴之：幼児教育保育課長、三ツ矢誠：こども若者女性課長、竹嶋雅人：都市政策課長、佐藤正裕：中心市街地整備室長、山縣豊：道路整備課長、深谷一紀：水緑公園課長、原田亮男：学校教育課長、浅田和貴：消防総務課長

事務局：近藤真一：市民協働部長、近藤宏幸：危機管理課長、小原教寛：危機管理課生活安全係長、宇佐見裕哉：危機管理課生活安全係主任、津坂拓男：危機管理課生活安全係地域安全専門員

欠席者：土井正明：東海大府交通安全協会大府分会長、山内とよ子：大府市地域婦人団体連絡協議会代表

議事

● 司会 近藤危機管理課長

● 議長 岡村大府市長（会長）

1 会長あいさつ

【 会長 】

この会議は、交通安全対策基本法という法律の中で位置付けられており、交通安全計画等を作成するため、条例で定めて設置しているものである。

昨今の交通環境を取り巻く情勢は厳しさを増す状況にあり、本市の交通情勢については、後ほど交通課長様から説明があるが、交通事故の件数が前年対比で

増加しており、悲惨な交通事故を1件でも減らすことが喫緊の課題となっている。

本市においては、高齢者が関係する事故の抑制を図るため、高齢者の運転傾向を踏まえた交通安全啓発や、全国でも珍しい自動車学校等と連携した高齢ドライバー運転技能向上教習を実施している。免許を返納するのではなく、国立長寿医療研究センターと連携したプラチナ長寿検診の中で、希望者に対しプラチナ運転講習を実施し、運転寿命の延伸を推進している。さらに、自転車を利用する市民の自転車乗車時の事故による被害を軽減するため、本年度から自転車乗車用ヘルメット購入費補助制度を全年齢に拡大した。

本年度の対策会議では、第11次大府市交通安全計画に基づいて策定する令和6年度交通安全実施計画について、御審議いただきたい。本日もご出席いただいている委員の皆様には、それぞれの立場から、いろいろなご意見を頂戴し、各種事業の展開に反映させていきたいと考えているので、よろしくお願いします。

2 協議事項

令和6年度大府市交通安全実施計画（案）について 【資料1】
事務局及び関係幹事による資料説明

【委員】

高齢者の交通安全対策としてドライバー講習を実施したとあるが、事故や違反が減っているのか。

【事務局】

高齢者のドライバー講習の結果を数値化するのは難しいが、自動車学校での講習は、マンツーマンでの講習を実施している。自分の運転を見直す良い機会になったという声があり、高い効果ができていると認識をしている。

高齢者への講話活動についても、参加者の意識の変化があると認識をしている。

【委員】

外国人向けに5か国語に対応した交通安全チラシを配布しているということだが、5か国語がなにか教えて欲しい。

【幹事】

英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語の5か国語である。

【 委員 】

横断歩道でのハンドアップ作戦について質問したい。

県が管理する県道でも、横断歩道で止まってくれないという話や、夜間の照明設置の要望が多く寄せられている。昨年度、横断歩道に歩行者が来た際に点灯するセンサーライトを設置し、設置の前後で自動車の停車率を調査した結果、停車率が上昇したという結果がある。

県ではこういった取り組みの継続を考えているが、大府市が実施しているハンドアップ作戦の具体的な内容を聞きたい。

【 事務局 】

ハンドアップ作戦は、子どもだけではなく大人も手を上げてもらえるよう啓発活動とチラシの配布をしており、実際に交差点でのぼり旗を立てて声掛けを実施している。

また、大府市在住の方が毎日新聞主催のコンテストで賞を受賞したため、その作品をクリアファイルにして、チラシと一緒に配布する取り組みもしている。

【 委員 】

桃山町地内のゾーン 30 プラスに設置した狭さくについて、設置後の状況や意見を聞きたい。

【 幹事 】

桃山町地内に設置した狭さくだが、実際にスピードの減少を確認できた。また、多くの反響があったため、効果があったと認識している。

3 報告事項

大府市の交通事故状況について

【 委員 】

日頃から、警察行政に多大なる協力を賜り、改めてお礼を申し上げる。

愛知県の交通事故情勢について、5月21日時点で54名が交通事故によって亡くなっている。前年対比7名減少となっているが、東京千葉に続いて全国ワースト3位と危機的な状況であり、県警としても非常に危機感をもっている。東海警察署管内の情勢だが、東海市内で2件、大府市内で1件の交通死亡事故が発生している。本年も1月21日に大府市内で、歩行者が亡くなる死亡事故が既に1件発生している。大府市では令和元年から令和4年まで交通死亡事故が発生しておらず、東海警察署としても非常に感謝している。やはり警察

だけでは交通死亡事故は減らすことができない。各所関係機関が団結しなければ減らすことができないと実感している。

昨年の交通死亡事故の状況をみると、道路横断中の歩行者の事故が多発している。また、ヘルメットの着用率だが、高齢者の着用率が増えていると感じる。ヘルメット着用により助かった交通事故もあり、ヘルメット着用は非常に重要である。

東海警察署管内の人身事故発生状況だが、4月末で154件と昨年対比10件減少となっている。内訳としては、東海市が84件で前年対比18件減少、大府市が70件で前年対比8件増加となっている。物損事故は、1,820件で前年対比28件増加、東海市が958件で前年対比11件減少、大府市が862件で前年対比比39件増加となっており、大府市がいずれも増加傾向となっている。

人身事故の内容をみると、追突、出会い頭、左折時の順に多く発生している。また、時間別でみると、昼間、朝方、前夜の順に多く発生しており、通勤通学の時間帯の事故防止をしていく必要がある。さらに、大府市の学区別の状況だが、石ヶ瀬学区、北山学区、大府学区の順で多く事故が発生している。

交通事故情勢が非常に厳しい中で、東海警察署では交通事故死を減らすため、4本の柱をたてている。「高齢者」「歩行者」「自転車」「交差点」を対策の柱として取締りを強化していく。

再度ヘルメットの話に戻るが、様々な啓発活動をしてヘルメット着用を呼びかけている。死亡事故現場で、ヘルメットを着用していれば救われた事故を多くみてきたからこそ、ヘルメット着用の重要性は身をもって感じている。昨年、ヘルメット着用が努力義務化となり1年経過した。徐々に着用率は増加しているが、高校生以上の着用率が低く、この年代の着用率があがるよう啓発活動を積極的にしていきたい。

交通事故が1件でも減らせるよう、積極的に取り組んで行くため、今度とも御協力をお願いする。

(閉会)